

2025年(令和7年)度 事業報告書

V3.6

特定非営利活動法人阿武山地震・防災サイエンスミュージアム

I 事業期間

自:2025(令和7年)4月1日～至:2026年(令和8年)3月31日迄

II 事業の成果概要と実施状況

今年度も本法人の設置目的に適った特定非営利活動に係る6事業並びにその他の1事業を実施した。また、法人運営の基盤となる会員数の維持・増加を目的とした取り組みもおこなった。各事業の詳細は、以下の通りである。

会員動向

2026年3月31日現在で、正会員50名(前年度末52名)、準会員7名(前年度末8名)、賛助会員7名・1法人(前年末7名・1法人)、合計64名・1法人で、前年度末合計67名・1法人に比べ微減となった。引き続き、年4回開催される「新まんてんてらこや」等のイベントに無料で参加できる事などの会員のメリットをPRするなどして、会員数の維持・増加を目指す。

1. 特定非営利活動に係る事業

(事業名)(1)地震・防災サイエンスミュージアム活動の企画・運営

①一般見学会

一般見学会や団体見学会等の運営は10年に渡るサポーターの経験と努力によって安定し、成熟の域に達していると考えている。

しかし、一般見学会についてはここ数年、見学会の申込が減少し続けており、2024年度は申込者0で開催できなかった回が数回あり、開催できた日でも、1回当りの参加者は定員30名に対し、2022年度11.5人/回、2023年度8.2人/回、2024年度8.0人/回と減ってきている。

そこで2025年度より、一般見学会の在り方を少し変えた。

従来は、午前、午後の1日2回の見学会の内容は同じ内容であった。最初、地震学の歴史をメインにしたセミナーの後、地震計・屋上を見学する。その後セミナー室に戻って、大阪平野の地下を探る「阿武山アースダイバー」のDVD鑑賞、最後に30分間の地震関係以外の、サポーターが作成した日替わりのミニプログラムを行っていた。

これを2025年度より、以下の様に変更した。

- ・開催頻度は従来通りとした。
- ・午前の部は従来通り、地震学の歴史を中心としたセミナーの内容とするが、従来の「ミニプログラム」を無くし、この分の時間をセミナーと地震計・屋上ツアーに割り振り、時間的に余裕を持たせた。
- ・午後の部については地震学に拘らず、従来の「ミニプログラム」の内容を、更に充実させた内容でメインセミナーとし、あらかじめ開催日ごとにテーマを決めておいて、見学者にテーマを選んで参加して頂けるようにした。

午後の部のテーマは、現在、以下の5テーマとしている。

- ・阿武山古墳 ・観測所の建築 ・地震と防災クイズ ・阿武山の自然 ・歴史的作業機械

その結果、2025 年度 1 年間では、開催回数 42 回に対し、見学者は 322 人で、1 回あたりの平均見学者数は 7.7 人/回と、残念ながら前年度比微減となっている。

(下記は 2026 年度の実績であり、補足説明として付け加えた)

ただ、その後、3 月 17 日(火)の、毎日新聞夕刊の第 1 面に阿武山観測所の記事が掲載された事が理由かと思われるが、2026 年 4 月以降 急激に見学者申込者が増加している。

(申込者ベース) 4 月:12.0 人/回 5 月:19.3 人/回 (2026 年 4 月末時点)

また、4、5 月 2 カ月間の午前の部(地震学コース)と午後の部(特別コース)の、各 1 回あたりの申込者は以下の様になっている。

(申込者ベース) 午前の部:13 人/回 午後の部:18.3 人/回 (2026 年 4 月末時点)

(ここまでは補足説明である)

②団体見学会

団体見学会について、2022 年度以降の見学者数推移は以下の様になっている。

2022 年度:22 団体(377 人) 2023 年度:27 団体(737 人) 2024 年度:29 団体(730 人)

2025 年度:17 団体(319 人)

団体見学会については、件数的にも人数的にも前年比減少している。2023 年度、2024 年度について、急激に人数が増加しているのは、阿武山小学校や奈良女子大付属小学校など、小学生の団体が入ったことが理由である。

見学客の内容については、以前はハイキングの途中で観測所を見学される様な団体が多かったが、最近では市民カレッジや市民環境大学、地域自主防災会の方等、防災に関心が高い方々の団体が増えてきている。防災意識の高まりという面から見ると、団体見学会は堅調に推移していると見ている。

③サポーター募集・育成

今年度は高槻市の広報紙(2026 年 3 月号)に『サポーター育成説明会』の募集広告を掲載いただき、3 月 15 日にサポーター育成説明会を開催した。その結果、15 名の申込が有り、10 名が説明会に参加、最終的に 7 名がサポーターとして活動に参加する事になった。

加えて、従来からサポーターの増員、育成についての問題提起がなされながら、その体制作りが十分にできていなかったため、サポーター活動開始後の育成方針について議論し、その体制を再構築した。これまで不定期実施であったスキルアップのための「サイエンスコミュニケーター認定」の定期実施等を計画した上で、「サポーターオリエンテーション」を新たに開催することで、新規サポーターの早期適応と円滑な活動開始を支援する取り組みを実施した。

(事業名) (2) 地震・防災研究の成果発信、教育、啓発

①公開講座 (新まんてんてらこや)

専門分野の講演会シリーズ「新まんてんてらこや」は、今年度も対面とオンライン講義のハイブリッド方式、又はオンライン方式のみで、3 カ月毎に、第 8 回、第 9 回、第 10 回、11 回と、合計 4 回開催した。

その内、第 8 回、9 回は NPO 会員、一般の方共にハイブリット方式で行ったが、第 10 回以降は

NPO 会員のみハイブリッドとし、一般の方々は対面参加のみとした。理由は、NPO 会員の方への優待という事と、万一配信がうまくできなかった場合の返金などの手続きなどを考慮しての事であった。

実施内容は次の通り。

- (第 8 回) 「地震波で地下を覗く」 京都大学名誉教授 澁谷拓郎
ハイブリッド 参加者(対面+リモート):38 人
- (第 9 回) 「『南海トラフ地震の真実』の真実」 京都大学名誉教授 橋本 学
ハイブリッド 参加者(対面+リモート):49 人
- (第 10 回) 「世界の人々は災害をどう見ているのか」-日本の防災を考えるヒント- 京都大学防災研准教授 中野元太
一般は対面のみ 参加者(対面+リモート):22 人
- (第 11 回) 「地下から火山を読む」-マグマのサインと地球のしくみ- 京都大学防災研助教 畑 真紀
一般は対面のみ 参加者(対面+リモート):26

②洞爺湖有珠火山マイスターとの交流シンポジウム参加

洞爺湖・有珠山周辺地域では、「火山マイスター」に認定された人々が火山マイスターネットワークを組織し、減災教育の普及、ジオパーク活動の推進、地域振興に取り組んでいる。

こうした市民主体のサイエンスコミュニケーション活動は、当 NPO の活動理念や実践と極めて親和性が高い。そのため、相互交流を進めることは、双方の活動のさらなる発展につながる有意義な取組であると考えられる。そこで、2024 年度の第 6 回まんでんてらこや(2024 年 12 月 1 日開催)として、岡田夏美京大防災研特任助教(当時)の仲介で、「減災のための科学とコミュニケーション」と題して、洞爺湖有珠火山マイスターと交流シンポジウムを開催した。この時には、北海道大学 宇井名誉教授を始め有珠火山マイスター 10 名が来館し、パネルディスカッション、観測所見学会等を開催し、新まんでんてらこや参加者なども交えて交流を行った。

2025 年 7 月 6 日～9 日に、北海道洞爺湖サミット記念館において、飯尾理事長、矢守副理事長、および阿武山サポーター 6 名が参加して、「減災のための科学とおせっかい」と題して第 2 回目の交流シンポジウムを開催すると共に、洞爺湖有珠火山マイスターと共に、有珠山周辺にまんでん地震計 計 3 台を設置した。また、設置した地震計から得られたデータの読み取りなどの実習も行った。阿武山から参加したサポーターの中には活動を始めて日の浅い方も居られ、これらの方々にとっても非常に良い体験になったと考えている。

(事業名) (3)地震をはじめとする防災等に関する講演会、セミナー等の開催

①ペットボトル地震計講座

例年好評をいただいている小学生対象の夏休み企画「ペットボトル地震計講座」は、ペットボトルを使って簡易な地震計を作って地震計の仕組みなどを学ぶ講座で、今年度も例年通り阿武山観測所を皮切りに、クロスパル、人と防災未来センター、更に今年度も東京 NTT 様からもお呼びいただくと共に、今年初めて枚方市中央図書館でも開催する事が出来た。多くの子供達に地震科学への興味を持ってもらうことができたと感じている。

実施内容は次の通り。

- ・ 7/20,7/21 阿武山観測所 (場所:高槻市 31 組)
- ・ 7/27 高槻市立総合市民交流センター (場所:高槻市 29 組)
- ・ 8/2, 8/3 人と防災未来センター (場所:神戸市 28 組)
- ・ 8/7 東京 NTT コム (場所:東京都 16 組)

②出前講座(防災講演会)

地域や組織の要請があれば、地震や防災に関する一般向けの講演会を出前形式で行った。

メインテーマは我々を取り巻く南海トラフ等の地震環境についての講演会で、今後予想される大地震にどのように備えるか、政府発表の臨時情報等も取り入れた解説などをわかり易く説明した。又、受講者が楽しみながら防災知識を習得して頂ける防災クイズ等、内容のメニューを拡げて、地震・防災に一般市民が関心を持ってもらえるような啓発活動を行う事ができた。

実施内容は次の通り。

- ・ 6/20 大阪府民カレッジ (クロスパルにて)
- ・ 10/1 西阿武山コミセン (西阿武山コミセンにて)
- ・ 1/15 北清水公民館 (北清水公民館にて)
- ・ 1/30 高槻市民カレッジ (クロスパルにて)
- ・ 2/19 阿武山支援包括センター
- ・ 3/6 磐手公民館 (磐手公民館にて)

③アマチュア無線体験会

非常時には緊急連絡に役立つため、阿武山観測所に開局した「アマチュア無線局クラブ JL3ZPK」、青少年等にアマチュア無線活動を通して緊急時の連絡用として、また、電波の面白みを伝えるための活動を展開している。2025 年度も京大ウィークスの催しの一環として「南極昭和基地アマチュア無線局(8J1RL)との無線交信チャレンジ!」と銘打って、南極観測隊との無線交信にチャレンジした。電波伝搬のコンディションが悪く短波帯での交信は成立しなかったが、インターネットを活用した D-STAR 通信方式で 8J1RL と交信することが出来た。

子供達の様々な質問に越冬隊員が丁寧に応答して頂き、アマチュア無線の楽しさや防災に役立つ仕組みを多くの子供たちに体験してもらえたと考えている。

実施内容は次の通り。

- ・10/12 18 時～20 時 近隣市民が親子で参加

(事業名)(4)観測所施設や周辺環境の整備・保全、および、有効活用

①阿武山グリーンクラブによる活動

観測所敷地内の環境保全については、阿武山グリーンクラブが長年にわたり、観測所建物周辺の整備、草刈り、植栽などを通じて、自然環境および景観の維持活動を継続してきた。

特に、観測所道路および側溝の清掃・維持管理に貢献しており、訪問者や近隣住民に対して、安全かつ快適な環境を提供してきた。また、樹木の名前プレート設置など、自然観察ツアーの補助も行った。

活動日は原則 毎週金曜日。

②森林整備グループによる活動

観測所は約 9ha に及ぶ広大な敷地を有し、その大部分が森林に覆われている。しかし近年、森林全体が遷移の過程において老齢化の段階を迎えつつあり、立ち枯れ木が著しく増加している状況にある。

7月から8月にかけては、観測所道路周辺において枯れ木や繁茂した樹木の自然倒木が相次いで発生し、道路を完全に封鎖する事態が連続して生じた。幸いにも、昨年度より森林整備グループが発足していたことから、倒木の撤去作業を迅速に実施することができ、職員の通勤や業務への重大な支障は回避された。

これら危険樹木については、継続的な点検を行っており、樹高が高く対処の難しい大型樹木については、専門業者が、それ以外については安全を確保した上で森林整備グループが担当して計画的に伐採を実施している。

活動日は不定期であるが、概ね月2回程度。

③屋上の排水溝清掃業務

この業務は、一般見学会の運営と共に、京都大学からNPOに業務委託されている項目の一つである。観測所周辺は自然がそのまま残された貴重な里山であるが、それだけに周辺の古木等からの枯れ枝や落ち葉が多く、これらが建屋屋上に吹き寄せられ、放置しておくで排水溝を塞いだ結果、水が観測所室内に漏れ出してしまふ。従ってこの落ち葉や枯れ枝を定期的に清掃する必要がある、この作業を行う事も含め、事務局員が定期的に出勤し、随時点検を行って、必要に応じこの業務に当たっている。

(事業名)(5)観測所施設を活用した学術・教育・文化・芸術事業の支援

①第5回阿武山観測所と阿武山周辺の写真コンテスト

今年度も、5回目となる「阿武山観測所と阿武山周辺の写真コンテスト」が開催され、9月1日～12月31日の間、12才から81才の幅広い応募者から51点の力作が応募された。

全日本写真連盟高槻支部や京都大学防災研究所の先生方、当NPO法人の理事により厳正な審査を行ない、大賞1点、準大賞2点、入選5点が選ばれた。

また今年から新たに15歳以下を対象とした、子ども大賞を設け、1点が選ばれた。

現在もNPOのホームページより、これら入賞作品を見て頂く事ができる。

(事業名)(6)教育関係者の研修、教育教材開発の支援

①地震・防災研究成果・教育事業

毎年、大阪大学の学生、大学院生を対象に、まんてん地震計を使用して、地震計設置、観測、そして記録の読み取りなどの観測実習を行っている。今年度は6月15日(日)に行い、大学生11人が参加している。

(事業名)(7)その他本法人の目的を達成するために必要な事業

今年度は特に無し。

2. その他の事業

(事業名)(1)地震・防災に関連する資材・物資の販売

①書籍販売(地震・防災に関連する資材や物資の紹介と販売事業)

阿武山観測所及び当法人を紹介した冊子「阿武山観測所ガイドブック」は、地震学や阿武山観測所の歴史、保存展示している歴代地震観測機器の解説、昭和初期の歴史的な建築物や周辺の自然や眺望なども紹介したガイドブックで、主に見学会の機会に積極的に販売活動を行なった。しかし前年度売上296冊に対して、今年度売上は127冊で、残念ながら前年度には及ばなかった。

また、当 NPO の梅田康弘理事著の新書籍「地震情報を読み解く」は、2008 年発足の報道関係者向け勉強会「関西なまずの会」で講義を行ったテーマを整理し、地震学の基礎的な解説を加えた入門書で、梅田先生が当 NPO のために再編集をして頂いた本である。

こちらも観測所見学者を中心に販売したが、前年度 70 冊に対し、今年度は 56 冊と、残念ながら前年度に及ばなかった。

Ⅲ 課題および特記事項

① NPO 会員数の増加を図る

会員数増を計画したが、積極的かつ効果的な勧誘活動ができず、結果、会員総数は 65 名で前年度と比較して 3 名減と残念な結果に終わった。

この中には 2025 年度に年会費を納入いただけなかった会員様もおられ、2 年間年会費を頂けなかった場合は自動退会となるという定款の規定により、65 名より減少する可能性もある。来年度は会員の方々へ、当 NPO 法人の会員としてのメリットを感じられるサービスや情報の提供を行い、活動を支援いただくための更なるアピールが必要である。

② 新規サポーターの育成

NPO 活動を支えるサポーター会メンバーの高齢化が進み、日々の活動に参加できる方の人数が減少してきている。今後、更に活動の幅を広げてゆく為にも比較的若いメンバーを育成して行く事が急務となっている。この様な状況の中で、今年度は 3 月に新規サポーターの募集を行い、7 名の新規サポーターを迎える事が出来た。今後はこれらの新しく参加された方々をいかにして定着してもらう様にするか、そのための体制作り、マニュアル整備、等を行っている所である。また、見学会で、セミナーや展示物案内ができるサイエンスコミュニケーターへの資格取得も、従来は明確に定められたものが無かったので、3 カ月に 1 度定期的に登用テストを行うなど、目標を明確にして進めている所である。また、今迄はサポーター同士の交流や懇親の機会も少なかったため、今後は知見を高めるための見学などの機会も増やし、育成活動を進めて行きたいと考えている。

③ 一般見学会、団体見学会の見学者数を増やす

先の事業の成果概要や事業の実施状況でも述べたように、見学者の客層については、最近は変わってきている様に感じるが、人数的には決して伸びているとは言えない。

一般見学会は 30 人/回の定員に対して 2024 年度は 8.0 人/回、2025 年度は 7.7 人/回、団体見学会は 2024 年度 29 団体/年であったのに対し、2025 年度は 17 団体/年であった。

我々が見学会やイベントのチラシを配布に近隣を回る事もあるが、まだまだ阿武山観測所がこの様な見学会やイベントを行っているという事を知らない方も多いと感じる。

現在行っている、観測所のイベントを市民の方々に知って頂く方法は、市の施設や観光協会(JR 高槻駅)、及び観測所近隣地域等にチラシを配架、配布する方法である。

今後、さらに阿武山観測所を市民の方々に知って頂くために、以下の事が必要であると感じている。

- ・SNSを活用する
- ・チラシの配布先、配布方法を検討する。

従来は、サポーターの高齢化が進み、人数も限られていた中でSNSの活用が進まない状況であったが、新しいサポーターの方々も増えたので、今後の課題として考えて行きたい。

④ 将来に向け、見学会の有料化の議論を進める

現在、サポーターの活動は、京大から委託されている屋上の清掃や見学会に関わる事務処理、NPO の会計事務等での 2 回/週の半日出勤など、一部の業務を除いて、本来のサイエンスミュージアムとしての見学会などの活動は、観測所までの通勤も含めて全て無料のボランティアとして行われている。

将来的な事も考えると、いずれはサポーターの方々に交通費程度は支給できるような体制を作りたいと考えている。

そのためには、現在の活動の中からその資金を捻出する必要がある。

今すぐにと言うのは難しいが、例えば一部見学会の有料化なども視野に入れながら、そろそろ検討を進めて行きたいと考えている。

以 上